

### 国際人への扉

グローバル化が急速に進展しています。そこには、ビッグチャンスの到来と国際競争の激化という大きな流れがあります。このような流れの中で、国際人としてのコミュニケーションの力が、ますます重要になっています。しかし、英語への苦手意識や上達の壁を感じている人も多いかもしれません。本書は、このような読者を念頭に書かれたものです。

日本人は英語を読む力が高いとされています。しかし、この思い込みが日本人の英語の力のレベルを上げるうえでの大きな障害になっていると著者らは考えています。英語を日本語風の文に直して読む力は高いのですが、英語で書かれた内容を「英語のまま読む」力が足りないのです。そこで、本書では一見遠回りになりますが、まず、1章で英語で読む力をつける方法を学びます。

英語を英語のまま読む力がつき、かつ読むスピードも上がってくると、じつは聞く力のレベルアップの下準備も完了となります。そこで、2章では英語で聞く力を上げるためのポイントを解説しています。

英語を英語のまま読んだり聞いたりできるようになったら、つぎが英語で話す力のレベルアップの段階となります。3章で英語の発音の基礎の復習を兼ねて、そのポイントを解説しています。

1～3章の学習により英語の基礎が身についたら、国際人として英語をさらに自由に使えるようになるための下準備も完了します。そこで、4～5章では、英語を自然な流れ（文脈）でつかんでいく練習をしていきます。その過程で、英語が以前より身近に感じられるようになれば、英語によるコミュニケー

ションの力に少し幅が出てきたことになります。

英語が身近になってきたところで、文章の流れの基礎を改めてきちんと学習して、自分のもの（力）にしていきます。6章で、その基礎事項を学習していきます。4～6章（特に6章）で学ぶのはかなり高度なテクニックですが、じつは英語のみならず日本語にも共通するものです。一度そのコツをマスターしてしまうと、幅広く使えます。確実に、もの（力）にしてください。

一方で、日本人には通じない（ことが多い）英語ならではの表現もあります。これを7章で学びます。この表現は、英語の論理の心ともいえる重要なもので、数への徹底的なこだわりで根差す冠詞の表現です。冠詞の使い方は、英語の授業でも教えてくれるのですが、日本人にはなかなか身につかない難しさがあります。本書では、英語の心にまで立ち入って、これを勉強していきます。

以上の内容をひとつおとりマスターしたうえで、実際に英語で書いていきます。その際のポイントを、8章にまとめています。さらに、国際人としての英語によるコミュニケーションに役立つ可能性が高い知識を、9章にまとめておきました。

本書全体を通して、英語の文章例には土木・環境系のものを数多く使っています。さらに、土木・環境系シリーズの基礎科目としての位置づけの観点から、10～15章にそれぞれ理論・数値解析、構造、地盤、水理、計画、環境の各系での表現例を示しています。

本書で学んだことを基礎として、さらにその先の学習へとつなげることも大切です。各章末の演習は、このような点に配慮し、本書以外の適当な教材（映画、洋書など）の使用も念頭においたものとしています。このように英語の学習方法に幅や広がりが出るように工夫し、日常的に英語に接する機会を増やしていくと、本書で学んだことが確実に自分の力となっていくでしょう。

本書のイラストは、広島大学上田温子氏の手によるものです。また、京都大学湯山和香氏には、本書の草稿を通読いただき、読みやすさや内容の難易度に関し、助言をいただきました。ここに記して、謝意を表します。

本書による学習を通じて、英語による国際人としてのコミュニケーションの力が、いつのまにか自然に自分のものとなっていくことを願っています。

### 英語の授業を担当される大学教員の方へ

本書は、国際人としてのコミュニケーションの力をレベルアップするためのテクニックを解説しています。レベルは高度です（TOEICであれば900点以上を目指すレベル）。本書は大学受験英語の基礎が完了していることを前提として、その上の内容を解説していますので、高校までの英語のおさらいを中心に授業を組み立てる場合には、本書以外の教材をお使いいただくのがよいでしょう。

国際人としてのコミュニケーションには、きちんとした基礎の力と幅広く柔軟な応用の力の両方が必要となります。本書を通じて、国際人としてのコミュニケーションに必要な種々の練習を積み重ね、関連する知識を学んでいくことにより、コミュニケーションの手段としての英語が、より自由に使えるようになっていきます。

本書を大学学部半期15週の授業での教科書、もしくは副読本としてお使いになる際には、時間配分として各章を1回の講義で読み切るのがよいでしょう。全15章のうち、1～3章、6～8章がきちんとした（高度な）基礎の力をつけることを目的とした内容となります。特に6～8章が重要で、必要があれば、それぞれ2回ずつを当ててもよいでしょう。

4, 5, 9章はページの分量は多いですが、肩の力を抜いて学ぶことができる応用編の内容なので、学習も早いでしょう。

10～15章に、土木・環境系の例文を用いた解説をしています。1～3章、6～8章の基礎事項の再確認も兼ねて、お使いいただくとよいでしょう。

本書をお使いいただく際には、授業とつぎの週の授業の間の1週間の時間を、生きた学習の時間とするように、最大限利用するようにご配慮いただくとよいでしょう。各章末の演習をヒントに、学生に宿題を与え、それを毎週確認していくことにより、授業の効果の確認や今後の授業方法の改善などに役立て

るのもよいかもしれません。

「TOEICであれば900点以上を目指すレベル」と書きましたが、実際にTOEICを900点以上取るためには、本書の学習に加え、さらに適当な語学教材を用いて、徹底的に練習を積み重ねる必要があります。そのレベルになれば、国際人としてのコミュニケーションもかなり自然なものになっていくでしょう。

授業における発音やリスニングの練習の際には、英語圏の人 (a native speaker of English) の応援を依頼するのがベストです。外国人であっても、英語圏の人とは限らず、その代用にもならないことが多いので、このあたりは要注意です。適当な方が見つからない場合には、適当な視聴覚教材を使うのもよいでしょう。生きた英語に接する時間を少しでも増やすように工夫していきましょう。

2013年1月

井合 進  
R. Scott Steedman

## 1章 頭からすらすらと

- 1.1 カタマリを意識する 2
- 1.2 頭から順に理解する 4
- 1.3 頭が重い(長い) 6
- 1.4 頭から聞いていく 9
- 1.5 読むスピードを上げていく 13
- 演習問題 16

## 2章 初めが肝心

- 2.1 重要なカタマリをつかむ 18
- 2.2 初めのほうに意識を集中する 21
- 2.3 全体的な流れに沿って 24
- 演習問題 28

## 3章 英語でしゃべる

- 3.1 ビートを利かせる 30
- 3.2 母音 32
- 3.3 子音 35
- 3.4 流れとリズム 36
- 演習問題 38

## 4章 英語の遊び心

---

- 4.1 ぶぶ漬けの文化 40
- 4.2 敬意を込めて 41
- 4.3 悪くないね 42
- 4.4 考えときます 45
- 4.5 そういえば 47
- 4.6 残念です 50
- 演習問題 52

## 5章 英語の周辺

---

- 5.1 this と that 54
- 5.2 we と you 55
- 5.3 英語で敬語 58
- 5.4 裏返しの丁寧表現 63
- 5.5 アー, ウー 64
- 5.6 あいづち 65
- 5.7 four letter words 68
- 5.8 感謝 70
- 5.9 謝罪 72
- 演習問題 74

## 6章 文章の流れ

---

- 6.1 一つのパラグラフには一つの内容 76
- 6.2 トピック・センテンス 78
- 6.3 パラグラフの形式 80
- 6.4 頭からすらすらと書く 83
- 6.5 主語と述語のカタマリ 86
- 演習問題 90

## 7章 英語ならではの表現

---

- 7.1 a (an) 92
- 7.2 可算と不可算 93
- 7.3 the 96
- 7.4 数の意識 100
- 演習問題 103

## 8章 英語で書く

---

- 8.1 文の固さ 105
- 8.2 時の流れ 107
- 8.3 アブストラクトでの時制 111
- 演習問題 113

## 9章 言葉の先にあるもの

---

- 9.1 固まった際のお助け言葉 115
- 9.2 手を上げる 116
- 9.3 ディナーへのご招待 118
- 9.4 英語での冗談 128
- 9.5 会議のセット 132
- 演習問題 136

## 10章 理論・数値解析での表現例

---

- 10.1 基本形 138
- 10.2 わかりやすい英文表現に近づける 141
- 10.3 数値解析表現でのパラグラフの構成 142
- 演習問題 146

## 11章 構造系での表現例

---

11.1 平面応力と平面ひずみ 148

11.2 片持ち梁の曲げ 150

演習問題 154

## 12章 地盤系での表現例

---

12.1 擁壁に加わる土圧 156

12.2 土のせん断 159

演習問題 163

## 13章 水理系での表現例

---

13.1 Lagrangian 法と Eulerian 法 165

13.2 微視的／巨視的な流体モデル 168

演習問題 171

## 14章 計画系での表現例

---

14.1 システムと状態 173

14.2 拘束条件 175

演習問題 179

## 15章 環境系での表現例

---

15.1 低炭素建設産業 181

15.2 持続可能性 183

演習問題 186

引用・参考文献 187

索引 189

# 1 章

## 頭からすらすらと

### ◆ 本章のテーマ

本章では、英文をすらすらと読んでいく練習をしましょう。英文を前から読んだり後ろから読みなおしたりして、日本語風の文章に直して読むものではありません。英語が出てくる順で頭から意味をつかんでいくのです。この章により、読むスピードが上がってくれば、英語を英語のままに読んだり聞いたりする力の基礎が身に付いてきたこととなります。

### ◆ 本章の構成

- 1.1 カタマリを意識する
- 1.2 頭から順に理解する
- 1.3 頭が重い（長い）
- 1.4 頭から聞いていく
- 1.5 読むスピードを上げていく

### ◆ 本章を学ぶと以下の内容をマスターできます

- 👉 英語のままに読む力
- 👉 読むスピードの向上

## 1.1 カタマリを意識する

### 〔例文 1.1〕

Many striking photographic images have come to define aspects of the twentieth century, some, of course, quite horrible. One that has rightly achieved iconic status is the view of the earth first obtained from within the lunar orbit during the Apollo programme of the 1960s. Ever since the time of Galileo people have gazed at the planets through telescopes and wondered about conditions there and the possibility of life existing in these distant worlds. But compared with the view of the earth from near space these planets look quite uninteresting. The great surprise was the realization that our planet is very beautiful and yet seems to be so delicate (Fig.1.1). At the time of the first moon landing Norman Cousins, a columnist in the New York Saturday Review, made an important observation : “What was most significant about the lunar voyage was not that men set foot on the moon, but that they set eye on the earth.”

—— Michael J. Pender : Designing for Sustainability, From the Big Picture to the Geotechnical Contribution (2011) より

例文 1.1 のうち、下線の文をふつうに和訳してみましょう (図 1.1)。



図 1.1 宇宙船 Apollo からの地球の映像 (NASA)

**【ふつうの和訳】**

① まさに象徴的なステータスシンボルとなったのが、⑤ 1960年代のアポロ計画での④ 月飛行航路から③ 世界で初めて得られた② 地球の映像だった。

**【英文での対応箇所】**

① One that has rightly achieved iconic status is ② the view of the earth ③ first obtained ④ from within the lunar orbit ⑤ during the Apollo programme of the 1960s.

下線の文では、①②の一カタマリが一つの意味を表します。これは英文でも和文でも同じです。このカタマリをざくっと一つかみするように意識して読んでいくと、英語が読みやすくなります。

ふつうの和訳では、②～⑤の順が英文の順と逆になっています。このような和訳を作るには、②～⑤の英文を後ろから読む必要があります。

つぎに、一つの文をいくつかの文に分割してしまってもよいことにして、下線の文で英語が出てくる順のまま、頭から和訳してみましよう。

**【頭からすらすら訳】**

① まさに象徴的なステータスシンボルとなったのが、② 地球の映像であった。

②' その映像は、③ 世界で初めて得られた映像であった。

③' それが得られたのは、④ 月飛行航路からであった。

④' その月飛行は、⑤ 1960年代のアポロ計画でのことであった。

頭からすらすら訳では、①②、②'③、③'④、④'⑤の順で、英文での順序を入れ替えなくて、目に入った順に、頭から丸ごと訳していっています。その際に、一つの文の中から、つぎのように、一つのカタマリで一つの文になるように、うまく分割していくことがポイントとなります。

①②

②' ③

③' ④

④' ⑤

一カタマリにする範囲は、「述語（動詞）が出てきたら、その前後あたり」という感じで、アタリをつけていきます。下線の文では、まず①②を一カタマリとし、つぎに③で動詞が出てくるので、そこで一カタマリとする感じで、ざくっとつかんでいくとよいでしょう。慣れてきたら、動詞の前後にあたる③④で一カタマリとしてもよいでしょう。

なお、追加説明するカタマリは、追加説明される単語を主語として二重に使って、一カタマリとします（②', ③', ④'）。

## 1.2 頭から順に理解する

1.1節で学んだように、少し大きめのカタマリを意識して、ざくっとその内容をつかんでいく読み方は、英文でも和文でも変わりません。これに対して、英文と和文で異なる点もあります。

英文では、一つのカタマリについての追加説明が必要な場合、そのカタマリの後ろに別のカタマリとして追加説明をつける形が多くなります。1.1節に示した例文1.1の下線の文では、①②の一カタマリのうち②についての追加説明が、③④という別のカタマリでついてきています。さらに、③④のカタマリのうち④についての追加説明が、⑤という追加説明のカタマリでついてきています。

かりにAに対する追加説明がBであるとして、この関係をA ← Bのように書くとすれば、以下のような流れになります。

①② ← ③④ ← ⑤

### 【頭からすらすら訳】

① まさに象徴的なステータスシンボルとなったのが、② 地球の映像で

あった。

← (それは) ③ 世界で初めて得られた映像で, ④ 月飛行航路からであった。

← (それは) ⑤ 1960年代のアポロ計画でのことであった。

### 【英文での対応箇所】

① One that has rightly achieved iconic status is ② the view of the earth

← ③ first obtained ④ from within the lunar orbit

← ⑤ during the Apollo programme of the 1960s.

これに対して和文では, 追加説明のカタマリを, 追加説明されるカタマリの手前に押し込むことが多くなります。例えば, ⑤ というカタマリは ④ の追加説明なので, ⑤ を ④ の前に押し込めます。さらに, ③④ のカタマリが ② の追加説明なので, ② の前に押し込めます。このようにして, 1.1 節の初めに示したふつうの和訳ができあがります。

これを矢印を使って書くと, ふつうの和訳に示した和文は, 以下のような流れになります。

①⑤ → ④ → ③ → ②

上に示した英文と和文の流れを比較すると, ②~⑤ の順序が, 英文と和文では逆になっていることがわかります (図 1.2)。

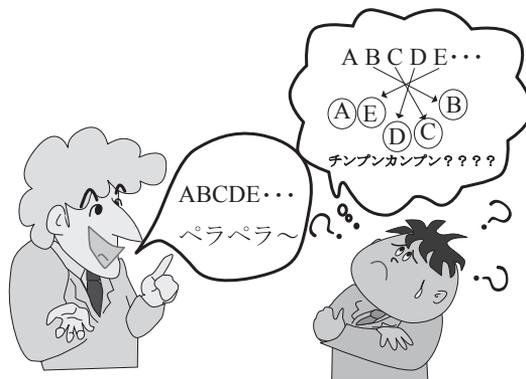


図 1.2 和訳の時

このルールに合わせて英文を読むとすれば、まず1回目は英語の順に読んでいって、アタリをつけながらカタマリにしていき、2回目は同じ文を後ろから読み直して、その順に後ろから訳していく作業が必要となります。結果として、一つの文を最低2回は読まなければ、つぎの文に進めないということになります。

このような読み方では、読むのに時間がかかり、疲れます。さらに具合が悪いのが、文章全体の流れに乗って読んでいくという読書の楽しみとは無縁の世界に落ち込んでしまうことです。

このような世界から抜け出して、1.1節に示した頭からすらすら訳のような読み方を練習していきましょう。その際に、一つのカタマリの意味をざくっと一つかみにすることがポイントです。これを意識しておけば、一つのカタマリの中で訳したときの単語の順序が変わってしまっても、まったく問題ありません。

また、カタマリが出てくる順番に頭からすらすらと訳していきましょう。カタマリの順番のほうは、英文で出てくる順番と同じにし、絶対に変えないことがポイントです。その代わりに、一つの文を分割していきます。

このコツが習得できると、しだいに読むスピードが速くなっていきます。また、読む力のみならず、じつはリスニングの能力も向上していくのです(2章参照)。

### 1.3 頭が重い(長い)

#### [例文 1.2]

Catastrophic failures in recent earthquakes have provided a sobering reminder that liquefaction of sandy soils as a result of earthquake ground shaking poses a major threat to the safety of civil engineering structures. Major landslides, lateral

Technical terms : liquefaction 「液状化」, sandy soils 「砂質土」, civil engineering structures 「土木構造物」, landslides 「地すべり」, lateral movements 「側方運動」

# 索引

## 【あ】

厚さ	
thickness	148
圧縮波速度	
compression wave velocity	144
安息角	
angle of repose	156

## 【う】

埋め込み座標	
convected coordinates	165
運動学的な (運動学の)	
kinematic	143, 168
運動モーメント伝達	
momentum transfer	168

## 【え】

永久的な	
perpetual	168
液化化	
liquefaction	6
演算規則	
rules of operation	173
遠心力	
centrifuge	10
円筒圧縮試験	
cylindrical compression test	159
円筒形の	
cylindrical	148

## 【お】

オイラー法	
Eulerian method	165
応力解析	
stress analysis	14
応力テンソル	
stresstensor	139

オーバーシュート	
overshoot	176

## 【か】

解析	
computation	14
回転	
rotation	160
解の集合	
set of solutions	176
回避する	
circumvent	169
確率論的	
probabilistic	173
荷重	
loading	156
荷重投入	
load input	143
片持ち梁	
cantilever	151
過程	
some process	176
可動	
animate	173
間隙圧	
porepressure	138
間隙空間	
void space	169
関数	
function	148, 165
慣性力	
inertia force	139

## 【き】

幾何学的な	
kinematic	168
幾何的形狀	
geometry	169

機器	
device	176
基準座標	
reference coordinates	165
強化	
strengthening	183
境界	
boundary	148
境界条件	
boundary condition	169
境界面	
interface	169
供試体	
specimen	160
橋梁基礎	
bridge support	7
巨視的な	
macroscopic	168
挙動	
manifestation	168
許容レベル	
acceptable level	176
亀裂	
fissure	159

## 【く】

偶力	
couple	150
クーロンの式	
coulomb's formula	156

## 【け】

係数	
modulus	144
経費削減	
cost saving	181
結果	
outcome	168

欠陥のある  
faulty 177

建設業  
construction industry 181

原動力  
driver 183

厳密解  
exact solution 150

**【こ】**

高効率の  
high-performing 181

構造設計  
structural design 156

構造力学  
structural mechanics 14

拘束条件  
constraint 175

剛な平面  
rigid plane 148

勾配  
gradient 139

降伏  
failure 159

合力作用点  
point of application 156

護岸建造物  
waterfront retaining  
structure 7

国際協定  
international agreement 181

酷使  
exploitation 183

固相  
solid matrix 169

固体表面  
solid surface 168

固体粒子  
solid grains 138

骨格  
skeleton 138

骨格土  
soil skeleton 144

固定点  
fixed point 165

固定部分  
fixed part 176

固有周期  
natural period 144

**【さ】**

最弱面  
weakest plane 159

最大主応力面  
major principal plane 160

最適解  
optimal solution 176

最適化理論  
optimization theory 173

最適点  
optimum 176

材料座標  
material coordinates 165

砂質土  
sandy soil 6

座標  
coordinates 165

サブシステム  
subsystem 176

サプライチェーン  
supply chain 181

作用する  
act 151

**【し】**

軸  
axis 150

軸方向  
axial direction 148

軸方向の  
longitudinal 148

次元解析  
dimensional analysis 143

地すべり  
landslide 6

持続可能性  
sustainability 18, 181, 184

実現可能性  
feasibility 181

実線  
full line, solid line 160

質量運動  
mass transport 168

質量粒子  
mass particle 165

地盤  
soil deposit 7

指標  
pointer 183

社会基盤整備  
infrastructure provision 182

重力加速度  
gravity acceleration 139

主応力面（主断面）  
principal plane 150, 160

出力  
output 173

出力率  
gain 176

純せん断  
pure shear 160

純曲げ  
pure bending 150

状態  
state 173

使用目的  
intended purpose 176

初期時刻  
initial time 165

進行性作用  
progressive action 159

人類  
humanity 184

**【す】**

垂直応力  
normal stress 150

垂直に perpendicular	148
数値解 numerical solution	14
ステップ応答 step-response	177
すべり面 surface of sliding	156
寸法 dimension	148
<b>【せ】</b>	
制御システム control system	176
性能規準 performance measure	175
成分 component	166
制約限界 constraints limit	176
制約する constrained	173
制約的 restrictive	173
設計 design	181
設計者 designer	176
線形 simple linear	143
先見性のある prescient	183
先行圧縮 precompress	160
せん断応力 shearing stress	151
せん断過程 shearing process	160
せん断強度 shearing strength	159
せん断試験装置 shear testing apparatus	159

せん断力 shearing force	151
専門家集団 the profession	181
専門技能 professional skill	181
<b>【そ】</b>	
相互作用 interaction	176
増幅器 amplifier	176
属性 attribute	173
速度 velocity	169
速度場 velocity field	166
速度分布 velocity distribution	169
側方運動 lateral movement	6
<b>【た】</b>	
対極 other extreme	148
対称性 symmetry	148
多孔質体 porous medium	168
多孔質の porous	138
たわみ deflection	150
単純化 simplification	148
単純せん断 simple shear	160
弾性 elastic	142
炭素会計 carbon accounting	181

端点 end	150
断面 cross section	148, 151
<b>【ち】</b>	
着力点 point of application	156
中間主応力 intermediate principal stress	159
柱状の prismatical	148
中立軸 neutral axis	150
直接せん断試験 direct shear test	159
<b>【つ】</b>	
つり合い equilibrium	139
<b>【て】</b>	
定式化 formulation	14
低炭素 low carbon	181
定量化する quantify	181
デカルト空間系 Cartesian spatial system	165
デカルト空間座標 Cartesian coordinate system	166
電磁場 electric field	14
伝達係数 transfer coefficient	168
伝達現象 transfer phenomenon	168

- 【と】**
- 等号条件  
equality constraint 175
- 投資決定過程  
investment decision process 181
- 透水係数  
permeability coefficient 143
- 動的  
dynamic 168
- 動的機構  
dynamics of process 176
- 動粘性係数  
kinematic viscosity 168
- 等方性、(等方的な)  
isotropic 144, 159
- 土質力学  
soil mechanics 138, 143
- 土層  
soil layer 143
- 土留め  
lateral earth support 156
- 土木構造物  
civil engineering structure 6
- 【な】**
- 内部摩擦  
internal friction 168
- 流れ場の問題  
flow problem 169
- ナビエ-ストークス方程式  
Navier-Stokes equations 169
- 【に】**
- 入力  
input 173
- 【ね】**
- 熱拡散率  
thermal diffusivity 168
- 熱伝導  
heat transfer 14, 168
- 粘性  
viscosity 168
- 粘性流体  
viscous fluid 169
- 【は】**
- 排水  
drainage 160
- 媒体  
medium 169
- 破線  
dashed line, broken line 160
- バリュエエンジニアリング  
value engineering 181
- 【ひ】**
- 微視的  
microscopic level 168
- 微小変形  
small deformation 141
- ひずみ  
strain 160
- 非定常流  
unsteady flow 166
- 美的感覚  
aesthetic 184
- 非排水の  
undrained 144, 160
- 比例する  
proportional 151
- 【ふ】**
- 物体力  
body force 139
- 物理現象  
physical phenomenon 168
- 不等号条件  
inequality constraint 175
- 分子運動  
molecular motion 168
- 分子拡散  
molecular diffusion 168
- 分子拡散係数  
molecular diffusivity 168
- 【へ】**
- 平均体積弾性係数  
average bulk modulus 138
- 平面  
plane 156
- 平面応力  
plane stress 148
- 平面ひずみ  
plane strain 148
- ベクトル  
vector 139
- 変位  
displacement 148
- 【ほ】**
- 方程式  
equation 173
- 【ま】**
- 曲げモーメント  
bending moment 151
- 【む】**
- 無次元パラメータ  
non-dimensional parameter 143
- 【も】**
- 毛細管  
capillary tubes 169
- 【ゆ】**
- 有限  
finite 183
- 有限要素法  
finite element method 14
- 誘導  
derivation 156

	<b>【よ】</b>				
擁壁		粒子		流体変位	
retaining structure	156	particle	165	fluid displacement	140
		流体	168	流体力学	169
	<b>【ら】</b>	fluid		fluid mechanics	
ラグランジュ法		流体系	165	流体粒子	168
Lagrangian method	165	fluid system		fluid particle	
		流体的連続体	168	流体領域	169
	<b>【り】</b>	fluid continuum		flow domain	
力学		流体の流れ	14		<b>【わ】</b>
dynamics	176	fluid flow		割引率	182
				discount rate	

— 著者略歴 —

**井合 進** (いあい すすむ)

1974年 東京大学工学部土木工学科卒業  
1974年～  
2001年 運輸省港湾技術研究所  
1980年 この間、カナダ国ブリティッシュ  
～82年 コロンビア大学客員研究員  
1991年 工学博士(東京大学)  
2001年 独立行政法人港湾空港技術研究所  
2002年 京都大学教授  
現在に至る

**R. Scott Steedman**

1980年 マンチェスター大学卒業(土木工  
学専攻)  
1981年 ケンブリッジ大学修士課程修了  
(土質力学専攻)  
1984年 ケンブリッジ大学博士課程修了  
1983年～ケンブリッジ大学講師, セント  
2000年 キャサリン大学特別研究員  
2003年  
～09年 英国王立工学アカデミー副学長  
2009年 ロンドン港管理公社委員  
2012年 英国規格協会(BSI)グループ  
規格部門所長  
現在に至る

**土木・環境系の国際人英語**

Introduction to English for Global Communication of Civil and Environmental Engineering

© Susumu Iai, R. Scott Steedman 2013

2013年4月18日 初版第1刷発行

検印省略

著者 井合 進  
R. Scott Steedman  
発行者 株式会社 コロナ社  
代表者 牛来真也  
印刷所 新日本印刷株式会社

112-0011 東京都文京区千石4-46-10

**発行所 株式会社 コロナ社**

CORONA PUBLISHING CO., LTD.

Tokyo Japan

振替00140-8-14844・電話(03)3941-3131(代)

ホームページ <http://www.coronasha.co.jp>

ISBN 978-4-339-05603-7 (中原) (製本:愛千製本所)

Printed in Japan



本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製・転載は著作権法上での例外を除き禁じられております。購入者以外の第三者による本書の電子データ化及び電子書籍化は、いかなる場合も認めておりません。

落丁・乱丁本はお取替えいたします